

鹿児島県小中学校長研究大会 分科会記録

○ 日 時 令和6年11月15日(金) 12:40~14:00

○ 分科会 I 中学校 第4分科会

「キャリア教育・生徒指導」

○ 研究主題

「生き方の自覚を高めるキャリア教育と生徒指導」

○ 協議題

「目標をもち、自己実現を図るキャリア教育の系統的推進」

○ 発表者 鹿児島市立城西中学校 吉岡 一徳

○ 司会者 鹿児島市立伊敷台中学校 亀山 浩一

○ 記録者 鹿児島市立西陵中学校 山下 信久

【質疑応答】

(①質問：東桜島中 角 和重 校長)

・キャリア教育の重要な一つであるキャリアパスポートの見直しは、どの組織で行っているか。

・生徒に書かせる時間帯の設定を教えてください。

・書かせるときの留意点は何か。

(①応答：城西中 吉岡 一徳 校長)

・毎週金曜日の2校時に、研修委員会を設定して、常に見直しを行っている。

・書かせる時間帯は、年度当初や各行事、学習のまとめ等の節目に書かせている。

・卒業生などの見本となるキャリアパスポートを、発達段階に合わせて参考にさせている。

(②質問：朝日中 山 宗功 校長)

・発表の中のアンケート結果について、達成度の低い生徒への手立てを教えてください。

(②応答：城西中 吉岡 一徳 校長)

・各教師に、生徒の教育活動をしっかりと見させていないと適切なアドバイスができないので、その点については常日頃から指導している。

・小学校段階で自己肯定感は育成されてきていると考えられるので、中学校では「自分も出来るかも。」という自己効力感をもたせることが重要と考え、指導している。

(③質問：第一佐多中 小田 啓介 校長)

・発表の中のアンケート結果で、達成率が低い生徒たちの共通点を教えてください。

(③応答：城西中 吉岡 一徳 校長)

・自分を認めてもらう場が少なかった生徒に集中し

ているので、教師には評価する場面を多く設定し、褒めて伸ばすことを大切にするように指導している。

(④質問：高山中 瀬戸口 浩司 校長)

・職場体験学習は、どのように行っているか。

(④応答：城西中 吉岡 一徳 校長)

・今年度までは、3日間実施してきたが、水曜日に休業の事業所が増えてきており、来年度から2日間に短縮する予定である。その代わりに、キャリア講話など、地域の方々に来てもらい、職業観について学ばせる時間設定を考えている。

【グループ討議後の班ごとの発表】

(E班：東桜島中 角 和重 校長)

・ある中学校では、生徒の自主性や主体性を育ませるために、中学2年時の夏休みに、生徒たち自ら職場体験学習を行いたい事業所に出向いて許可をもらい、中学3年時に、自ら開拓したその事業所で体験活動を行わせている学校があった。とても参考になった。

(D班：錦江中 平國 弘明 校長)

・キャリアパスポートを活用するにあたり系統性を重視させているが、中学1年から中学3年の流れが上手くいかない学校が多いことが共通課題として浮かび上がった。まずは、「自律」をキーワードに、日常生活の基本である「自分で起きて、自分で登校してくる。」という部分から実践させていく必要性を確認し合った。そのためには、保護者の家庭教育の意識も変えさせないといけないと感じた。

H班：田皆中 菅野 公平 校長)

・キャリアパスポートの活用が形骸化してきている危機感を感じている学校が多くあった。この場で共通認識ができたので、今後も横の連携を図りながら改善に努めていく確認を行った。

・ある中学校では、校内高校説明会の際、生徒の自己肯定感を高めるために、各高校の先生方を校長室から体育館へ、体育館から校長室への案内・誘導を行わせている。他の中学校でも実践していきたいとの話があった。

・ある中学校では、地域行事でも、可能な限り一人一役を担わせてもらえるように、地域との連携を図っている好事例を聞いたので、参考にしたいと思った。

(記録 鹿児島市立西陵中学校 山下 信久)

鹿児島県小中学校長研究大会 分科会記録

○ 日 時 令和6年11月15日(金) 14:15~15:35

○ 分科会Ⅱ 中学校 第4分科会

「キャリア教育・生徒指導」

○ 研究主題

「生き方の自覚を高めるキャリア教育と生徒指導」

○ 協議題

「豊かな人間性や社会性を育む生徒指導の充実」

○ 発表者 錦江町立田代中学校 土岐 邦寿

○ 司会者 錦江町立錦江中学校 平國 弘明

○ 記録者 南大隅町立第一佐多中学校 小田 敬介

【質疑応答】

(①質問：犬田布中 田之上 直樹 校長)

・i-clubとの連携は、どのような形で行っているのか。具体的に、学校にどれぐらい訪問し、どのようなサポートをしてもらっているか。

(応答：田代中 土岐 邦寿 校長)

・町が契約を結んでいる。町内の他の学校にも訪問しており、東京から、それぞれ5回程度来校している。企画を立てるときや中間発表のとき、T J K(田代中自己課題追求)の日は1日サポートをもらっている。

【グループ討議後の班ごとの発表】

(A班：高山中 瀬戸口 浩司 校長)

・錦江町は、町を上げてキャリア教育に取り組んでおり、新聞にもよく掲載されている。

・学校に届く様々な情報から、有益な情報を活用する力を校長として磨いていく必要がある。

・探求活動を進めたいが、準備や時間が必要なことから、職員をどう説得していくかが重要と考える。

・自己肯定感を高める手立てとして、褒めすぎている傾向が見られる。生徒の実態をしっかりと見て、簡単に褒めないことも自己肯定感を高める手立てとなるのではないか。

(F班：和田中 岩城 靖一郎 校長)

・ある中学校では、役場が企画した空き家プログラムに参加している。

・ある中学校では、役場が企画した地方自治について考えるプログラムに参加している。

・様々な依頼を受けて、子供たちのためにどのように役立てていくかを考えるのが校長の役目である。

・大学生の力を借りることを考えている。依頼方法や協力の内容などを具体的に考える必要がある。

【指導助言】

県教育庁義務教育課義務教育係主任指導主事

前山 隆史

〈2つの実践校から〉

・2つの学校の発表から、主体的に課題解決をする取組が見られ、自己指導能力の育成と他者の主体性を尊重することにつながっている。

・生徒指導のポイントである「生徒の成長・発達を支える生徒指導」「学習指導と生徒指導の一体化」「チーム学校としての生徒指導体制の構築」について、2つの学校の発表から具体的取組を見ることができた。

〈国(本県)の現状と課題〉

・本県生徒は、自己調整力と学びに向かう人間性が課題である。全国学力・学習状況調査から、自己肯定感とメタ認知力が全国平均を下回っている

・2050年には、100歳以上が53万人に増加。生産年齢人口は3分の2に減少する。人生100年時代の社会人基礎力を育てる必要がある。

・高卒の求人が増えているが、若年の離職率も上昇している。世界と比較して、日本の18歳の社会参画意識は低い傾向が見られる。

・高校生の調査で、社会人として、主体性、創造性、実行力が必要と感じている。

・高校生は進路情報がほしい、生徒を理解してほしい、職業に関する知識をもっと知りたいと思っている。

〈キャリア教育の方向性〉

・幼児期から高等学校まで、発達段階に応じて系統的にキャリア教育を実施していく必要がある。

・基礎的・汎用的能力を全教科で育む必要がある。

・職場体験を通して、生徒にどのような資質・能力を身に付けさせるのが重要である。そのためには、事前・事後指導の在り方が重要になってくる。

〈最後に〉

・すべての教育活動の中で、「主体的な活動」と「対話的な活動」を重視することが大切である。

・本年度、『学びの羅針盤』が改定されているので、校内研修等で、ぜひ積極的かつ有効に活用してほしい。

(記録 南大隅町立第一佐多中学校 小田 啓介)